

モニタリング調査の課題について

カワウの生息状況のモニタリングは、現在、ねぐらやコロニーで個体数をカウントする方法で行われており、カワウの分布の季節変動を考慮して、年3回3月、7月、12月に調査が行われているが、これまで調査されていた都府県で調査ができなくなっているところが出始めている。

春期（巣立ち直前期）の位置づけ

カワウのヒナが巣立つ前にあたる、営巣数のピーク時期に調査する。

繁殖期中でも早く始めるものと遅く始めるものがあり、春期1回の調査では、ひとシーズンの巣の総数はわからないが、営巣数のピーク時期に調査することで、概数を把握し、コロニー間の比較や巣立ちヒナ数の推定などに用いることができる。

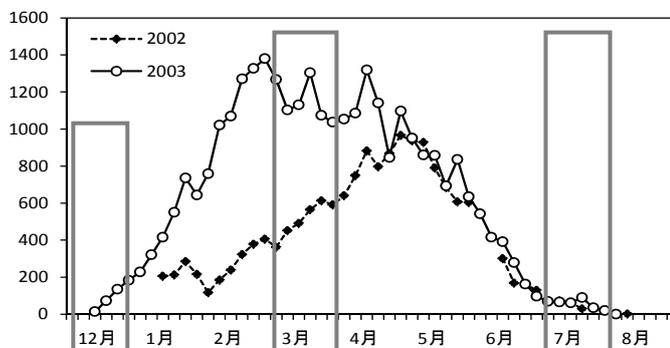


図1. 行徳鳥獣保護区におけるカワウの営巣数の季節変化。市川市環境清掃部自然保護課(2004)をもとに作図。

夏期（巣立ち直後期）の位置づけ

繁殖終了後で巣立ったヒナが出生コロニーを離れてねぐらを変える前の時期に調査する。春期の個体数との差をとることで、繁殖による個体数の増加数(大雑把な方法のためあくまでも目安)を推定する。

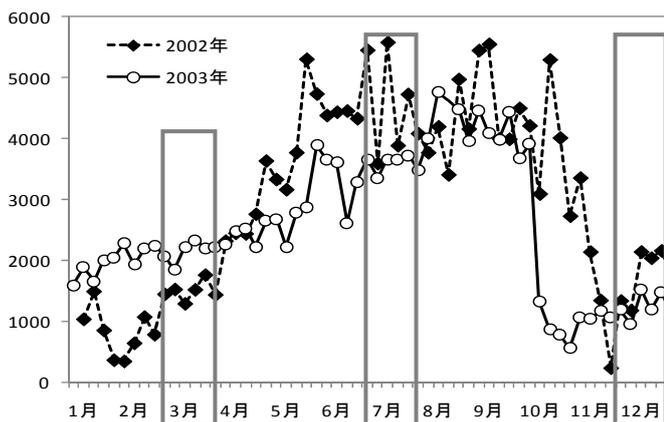


図2. 行徳鳥獣保護区におけるカワウの個体数の季節変化。市川市環境清掃部自然保護課(2004)をもとに作図。

冬期の位置づけ

夏と冬の間でカワウは季節的に移動する。そこで、秋の移動が終わった後の真冬に調査する。

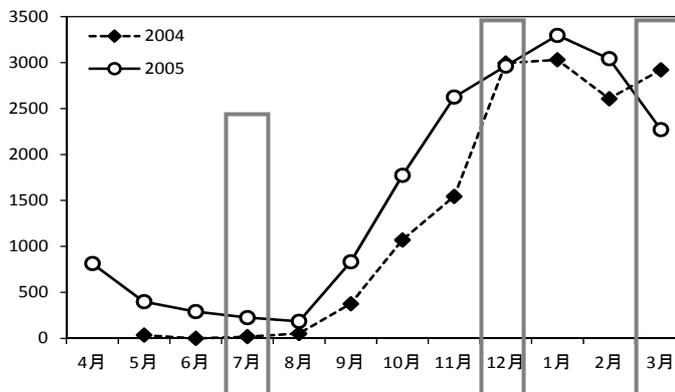


図3. 山口県のねぐら・コロニーにおけるカワウの個体数の季節変化。日本野鳥の会山口県支部(2007)をもとに作図。

ねぐら・コロニーの個体数規模の経年変化

関東では、カワウのねぐら・コロニーの数が増加しているが、個体数はそれほど増加していない。そのため、冬期では個体数が 300 羽を超えるねぐら・コロニーが減少している一方で、それ以下のねぐら・コロニーが増えている。

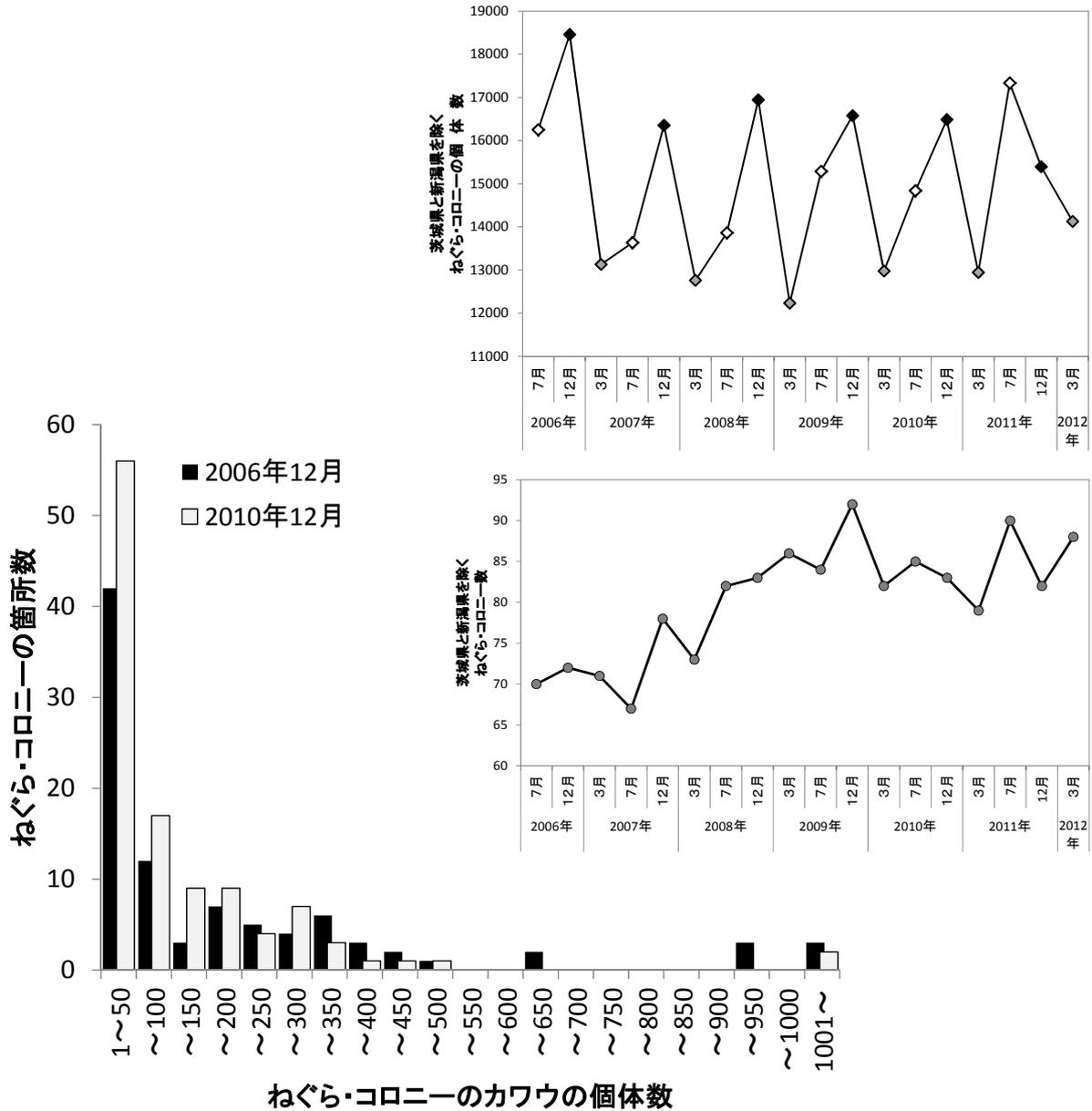


図4. 関東カワウ広域協議会におけるカワウの個体数とねぐら・コロニーの箇所数の経年変化とねぐら・コロニーの個体数の小規模化。(関東カワウ広域協議会より情報提供)

引用文献:

市川市環境清掃部自然保護課. 2004. 行徳近郊緑地カワウ営巣状況調査報告平成 15 年度. 市川市環境清掃部自然保護課. 市川.

日本野鳥の会山口県支部. 2006. 平成 18 年度カワウ食害等影響調査実績報告書. 山口県. 山口.